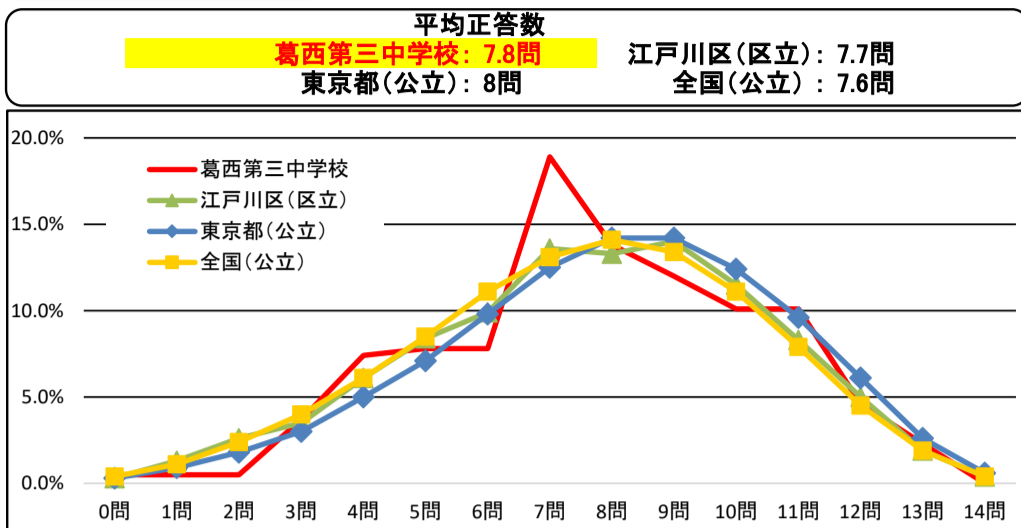


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 葛西第三中学校

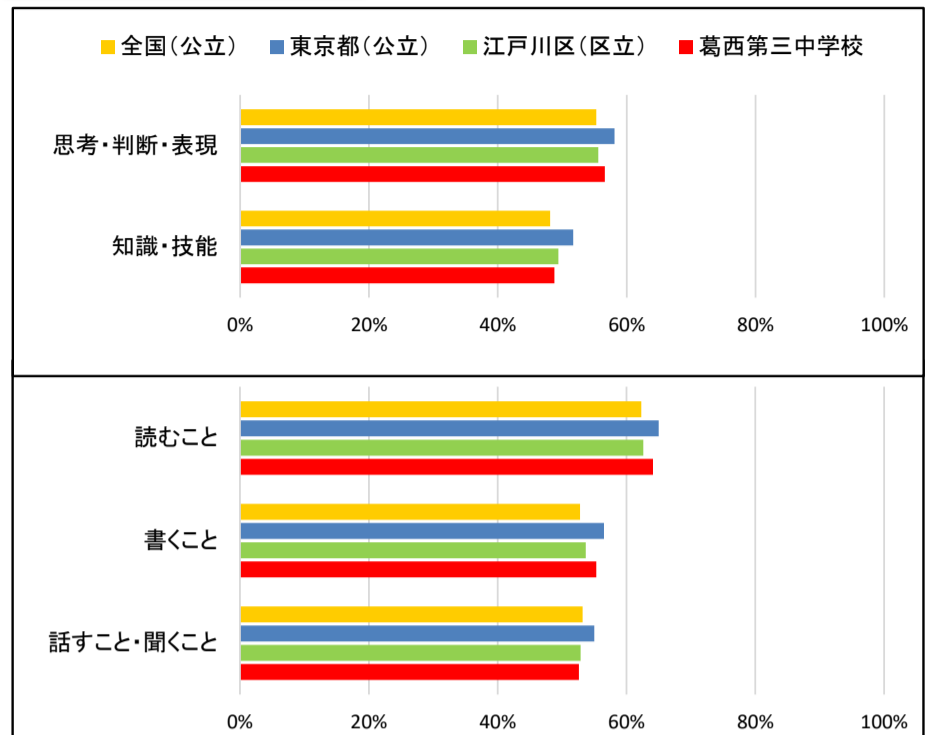
正答数分布



【平均正答率の差】

葛西第三中学校	55%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-2.0

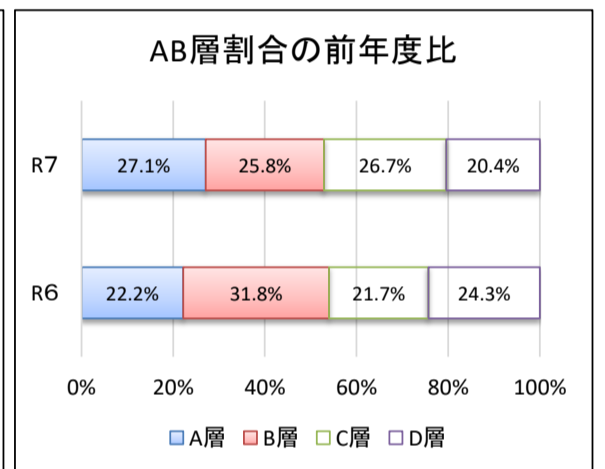
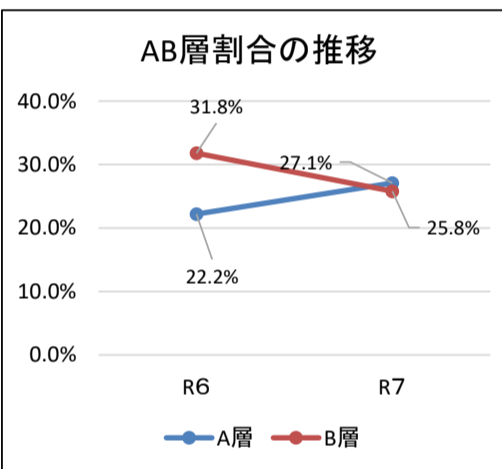
「領域別」の結果



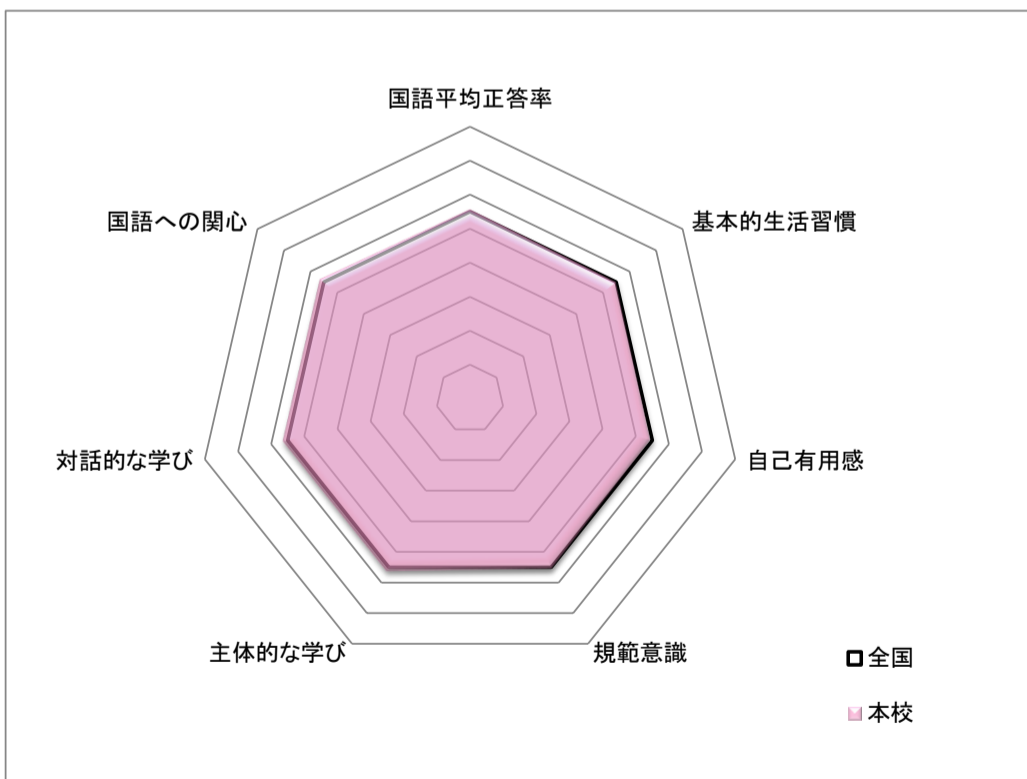
四分位における割合 (都全体の四分位による)

国語	上位 ← → 下位			
	A層 10~14問	B層 8~9問	C層 6~7問	D層 0~5問
葛西第三中学校	27.1%	25.8%	26.7%	20.4%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

すべての分野において、全国の値と近い結果が出ている。割合としてのグラフには表れていないが、「主体的な学び」「国語への関心」については、肯定的意見が少なかった部分である。自ら学ぼうとする力は、今後の学力の伸長に大きく作用するため、これらの項目に肯定的回答ができるよう、指導を続けていく必要がある。

《家庭・地域への働きかけ》

「基本的な生活習慣」「規範意識」については、学校でも指導しているが、各家庭における指導に依存するところも多い。本校地域は協力的な方が多く、生徒が過ごす環境は良い状態である。このチャートの円を大きくしていくことが学力の伸長につながることを呼びかけていく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

前年度と比較して、A層の割合が4.9%増えているが、B層の割合が6%減っており、全体としてAB層が1.1%減っている。全国と比較すると、A層が1.3%、B層が1.7%上回っているが、東京都との比較ではそれぞれ4.1%、2.6%下回っている。読書料との連携、「よむよむワークシート」の活用など、現在行っている取組をさらに充実させていく必要がある。全体の傾向として「知識・技能」について伸ばしていく必要があり、話し合い活動等とのバランスを考慮しながら授業を展開していく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

校内研修会として、文系教科、理系教科、実技教科の分科会に分かれ、授業研究を行っている。また、自己研修月間を設け、お互いに授業観察をし、授業後には考察を行うなど、指導力の向上に努めている。教科部会も放課後の時間帯に設定し、授業展開、考査問題、評価方法等の学び合いをしている。また、外部の教科研修、学校教育支援センターから講師を招くなど、外部人材からの研修も進めている。

・基礎学力の保障

国語の授業だけでなく、毎朝の読書の時間、放課後学習教室「EDOスク」などを活用し、基礎学力の定着を図っている。また、授業内でのスモールステップによる小テストの実施など、生徒が自己評価をしながら学力を確認できる場面をとっている。第2学年では区の弁論発表会参加に向け、全員が論文を執筆し、クラス内、学年内で発表をし、代表者を選出するなど、「書くこと」「思考・判断・表現」を伸ばす取組も行っている。

・学習習慣の確立

毎朝定時に本を読む朝読書の時間、授業以外に自ら学習に取り組む放課後学習教室EDOスクを活用している。家庭学習については、授業での課題の提示とともに、タブレットPCを使用して配信し、内容が確認できるようにしている。定期考査の時期では、試験範囲を早い時期に発表し、学習計画表を活用して計画的に実施、自己検証をしながら取り組めるようにしている。

・AB層の育成

個々の生徒により理解が進んでいる分野については、基礎基本の徹底とともに、発展的学習ができるよう、自分で課題を見つけ取り組める教材を用意するなどし、授業時間、家庭学習の時間を有効に使える指導をする。少人数の班活動などを利用し、自分の意見を発表する、他者の意見に耳を傾ける活動を取り入れ、さらに発展的な考え方ができるようにする。